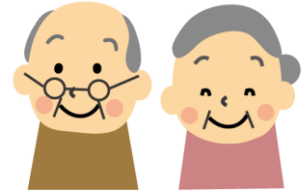


高 齢 社 会

ある日、電車で出かけた時のお話です。

大阪に向かう途中の停車駅で高齢のご夫婦が乗って来られ、私のとなりの席が1つ空いたところに妻(おばあさん)が座りました。夫(おじいさん)は立っておられたので、私が席を譲ろうとすると「ありがとうございます、でも横に座ると妻の顔が見られなくなるから」と断られました。妻は恥ずかしそうにしておられましたが、夫はそう言って立ったままでした。



現在80代の方は、戦争などでご苦労が多く楽しみの少ない青春時代を過ごされたのではないかと思います。成人してから高度経済成長のなか、激動する社会に追われて働き続けながら、現在の社会を創られてきました。

超高齢化社会の中で、最近では長生きすることがまるで「害」であるかのように、「老害」という言葉も耳にします。年を積みれば誰もがたどり着く先が「老害」といわれることがあってはならないと思います。これまで培ってきた豊富な経験を今後に引き継いでいく人生のアドバイザーとして、いつまでも元気であっていただきたいと思います。



近年、高齢者や女性、子ども、障がいのある人など、さまざまな人を誰ひとり取り残さず、すべての人が地域社会の構成員となるソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の理念が求められています。

「その考えは時代遅れ…」と思わず、人生の先輩の言葉として耳を傾けてみてはどうでしょうか。

子供叱るな 来た道だもの
年寄り笑うな 行く道だもの。
来た道 行く道 二人旅
これから通る今日の道 通り直しのできぬ道。

(出典：永六輔『大往生』(作者不詳))